

平成25年度第5回 南丹市行政評価推進委員会

議 事 録

日 時：平成25年8月27日（火） 午後2時～午後5時40分

場 所：南丹市役所2号庁舎3階301会議室

出席者：南丹市行政評価推進委員

窪田好男委員長、四方宏治委員、宮本三恵子委員

事 務 局

大野企画政策部長、堀江企画調整課長、中川課長補佐、山内係長、塩邊主任

傍 聴 者

1名（定員5名）

〈事務局〉

只今から第5回行政評価推進委員会を開催します。

〈委員長あいさつ〉

今年度は、南丹市行政評価の3分の1ずつを外部評価するようになって2周目の最終年度になりました。最終年度なので、全体のまとめをしていく。評価について、日本で行われるようになって十数年たつが、なるべくコストをかけずに政策の目的の必要性、市がやる主体の妥当性、有効性、費用対効果を明らかにしていくのが一番のポイントです。本来は調査をしないとわからないとされているが、日本では専門の方にご就任いただいて、行政の担当部局との問答を通じて、なるべく短時間で、かつコストをかけずに明らかにしていこうという手法が主流です。委員の皆様にご尽力いただきまして、今年度も施策のヒアリングを終えることができました。しかし、それをどのような報告書にまとめていくかで結果は随分変わってくる。今日はまとめをしていきたい。今日の議事は3年で1周の一区切りなので、次のステージに向けて評価をどうしていったらいいか、経過を踏まえてご意見をいただけたらと思います。

では、議事に入りたいと思います。報告書にまとめて市長に報告したいと思うので、報告書案について審議したいと思う。事務局で案を作っている、その中には今年度のまとめ案と、3年間の総括も入っているので、事務局から説明をお願いします。

（資料1により事務局説明）

〈委員長〉

まずは個別の評価に入るまでに「はじめに」や「評価の概要」などのところで間違っている、こういうことも含めたらいいなどありますか。またお気づきのことがあれば、あとでもご意見をいただけたらと思います。次に施策毎にいこうと思います。

まずは第2章第5節「伝統文化を継承する」です。私の感触としては報告書（案）の指摘内容等を無理に短くしなくてもいいと思うが、できるだけわかりやすい文章としたい。去年までの違いとしては、项目的に何をしろということではないが、こんな評価を試みたけど大事だと思うや、こういう発想が大事だというのを今年は書いている。去年よりも文字量が増えることになるが、ある種感想的なものについても残したらいいと思う。評価表と文章だけを読んで意味が通じるようにしておく必要があると思いますので、そういった観点からもご意見をお願いします。

〈委員〉

行政評価の指摘で、1つ目の「・」は公共的な価値があるという位置づけの問題と、管理負担の問題など全部入っているので、分けたほうがいいのではないかと。

〈委員長〉

これは私が発言したところだが、わかりにくかったですか。

〈委員〉

少なくとも2つにわけてはどうか。

〈委員長〉

『「文化財維持管理費」について、市が全額単費で負担しているが、公共的な価値があるという位置づけをもっと打ち出す必要がある。』と『放水銃の設置から維持管理まで市でという少し違和感があるので一部地元へ負担していただく必要があるのではないかと。』としてはどうか。

歳出削減の提案で、『施設管理運営費、展示会事業、調査研究事業について、若者が訪れるように展示を工夫すれば費用が削減できるのではないかと。』というのは、来場者が増えて収入が増えるという意味なら、『費用が削減できる』とするより、『来場者も増え、財政に貢献するのではないかと。』としてはどうか。間接的な意味で費用の削減ができるということだと思う。

歳出削減の2つ目の「・」について、事務局から少し補足をお願いしたい。

〈事務局〉

南丹市の若者のアイデンティティを確立するために、市の職員の力をそこに注いで、市外への文化博物館としてのアピールなどを、市民で長けた方の力を使って、全体的に見たらコストを削減できるという意見をいただいたと記憶している。

〈委員長〉

歳出削減の提案で、『ここを絞らないといけなくなったら、行政の人的資源は若者の地域アイデンティティを確立することに注力するべきである。外部へのPRを縮小し、その部分は市民と外部の協力を得るようにしてはどうか。』ということですね。

他にはいかがですか。

では次の第3章第2節「鉄道をさらに便利にする」についてはどうか。

〈委員〉

J Rの複線化が園部まで完成し、かなり便利になってきたという実感があり、今回のヒアリングの中では、鉄道の施設そのものを便利に使えるようにという議論が多くなってしまったように感じる。施策の方針とは少し違う方向の議論もあったように思うので、前段で実感として鉄道は便利になったということを入れてはどうか。

〈委員長〉

評価の第1としては、『複線電化を実現し、ダイヤも改正されて便利になった、引き続き園部から綾部方面への延伸を期待したい。』ということを最初に入れましょう。子育て関係で議論をしていたときも、ベッドタウンとして選ばれるようになってきているのではないかと議論もしていましたので。

個別の事業で胡麻コミュニティーセンター管理事業について、文章の前半と後半を入れ替えてはどうか。『「胡麻コミュニティーセンター管理運営費」の事業貢献度評価はCCになっているが、高く評価できる、ただ鉄道とまちづくりについて、どこが担当部署になるのかがわかりにくく、とても難しいので、検討をお願いしたい。』としてはどうでしょうか。

現時点の部署はどこになるのですか。

〈事務局〉

胡麻コミュニティーセンターについては、日吉支所地域総務課です。

〈事務局〉

ただ、鉄道の関係になると、交通対策室で、地域の振興では支所の地域総務課だったり観光であったりするので、鉄道が便利になって、そのあとまちづくりに生かしていくところは、それぞれの利便性が上がったことを題材にしてやっていくことになります。

〈委員長〉

最初に鉄道が便利になったことをもってきて、次に『鉄道とまちづくりについて、どこが担当部署になるかととても難しいが、重要である。』を入れましょう。「胡麻コミュニティーセンター管理運営費」のその部分の記述については削除しましょう。

〈委員〉

行政評価の1番下の「・」は個別に事業を指すものではなく、胡麻や日吉などいろいろな事業を総称しているので、胡麻コミュニティーセンターの下に入れてはどうか。

〈委員長〉

ヒアリングの中で発言したことだが、そもそも「園部駅西口広場自転車等駐車整備事業」で違法駐輪の自転車を指定管理者に撤去してもらって、返却時に費用を徴収するということはできるのですか。そのことに問題があるのか確認したい。園部駅周辺で違法駐輪の自転車を撤去する区域というのは条例などで定まっているのか。

〈事務局〉

はい、定めています。

〈委員長〉

では、こういったことを提言してクリアするべき大きな課題はあるのか。

〈事務局〉

現状では、委託しているシルバー人材センターの方に、違法駐輪の自転車にチラシをつけてもらって、撤去は年に4回一斉に行っています。

〈委員長〉

それは市の担当部署が行っているものですね。

〈事務局〉

チラシをつけることで、注意を受けるなら有料だが預けよかというようにつなげています。撤去作業を委託することまでのやり取りが当時なかったので、そこを確認ということであれば別途お時間をいただきたい。

〈委員長〉

細かいところまで指図しすぎかなと思いましたが、単純なアイディアとしては、トラブルはあるかもしれないが駐輪場の管理者に撤去してもらえば、撤去の頻度が増えて違法駐輪がなくなり駐輪場の利用が増えるだろうということと、頻繁に撤去するとなると市役所職員が行うのは無理があるというのが言いたかった。ここでは返還費用の一部を指定管理者の収入にするというようなことまでは言わなくてもいいかと思う。

〈事務局〉

パトロールをして違法駐輪ではなく、駐輪場に預けるように促してはどうかというような書き方で良いでしょうか。

〈委員長〉

促すだけではどうかと思う。自転車の撤去は身近な問題で行政法でもよく取りあげられることが多いが、違法駐輪をなくすには撤去の頻度がかなり重要になる。年4回ぐらいの撤去にあえば「たまたま運が悪かった」で済まされてしまい効果が低い気がする。私の地元では最近では月に1回ぐらい撤去をしているのでほとんどなくなった。撤去の頻度を多くしないといけないが、そうすると職員がするというのは無理があるので、西口の自転車駐輪所の事業をさせていただいている指定管理者にお願いしたらいいのでは、ということです。まずは駐輪事業くらいで切っておいて、『園部駅の周辺の違法駐輪がなかなかなくなる』と聞くので、職員による年4回の撤去ではなくこの事業の指定管理者にお願いしてやってもらうようにできないか。』としましょう。

事業No.116だが、『京都市の地下鉄の中吊り広告のスペースがあるので、それらで宣伝し』というのを入れてはどうか。

次の海の京都構想のところですが、舞鶴市以外もされているので『海の京都構想を京都府を中心に』としたほうがいいでしょう。

〈委員〉

兵庫県と京都府の間で、大丹波構想というのがあるが、それも考えられるのではないか。

〈委員長〉

海の京都構想の提案は『鉄道と高速道路を使って海の京都で多くの人が行くだろうから、

その時に南丹にもどうぞというアピールをしてはどうか』というのが趣旨になっている。大丹波構想自体は重要なことではあるが、鉄道と微妙に結びつくかなと思う。観光は連携をして力を入れていかないといけない。

歳出削減はどうですか。

では次に第3章第3節「安全で快適な主要道路でつなぐ」についてです。

〈委員〉

大前提になる大きな話が中段にあるので、最初にしたほうがいい。新設ではなくて、既存施設の維持管理を優先すべきという優先順位の話をしたと思う。

〈委員長〉

『主要道でつなぐというのは概ね実現している』というのを最初に入れてはどうか。続きで、『それゆえ道路の新設というのは慎重に検討していく必要がある。』としてはどうでしょうか。

（順番の並び替えの指示あり）

行政評価の指摘の下から2つ目の「・」ですが、道路改良が進んだ半面、どうしてもスピードが出やすくなってしまったため、事故への対策を考えていただきたいという内容にしましょう。その次の「・」は、自転車で来る人も増えているので、安全対策について検討いただく内容としましょう。

〈委員〉

補助金を市の方針に合わせてうまく使ってほしいというのもあったと思う。

〈委員〉

お金もすごく大事だが、基礎データがある上で道路行政は行われると思うので、新設、改修など年度ごとに優先順位をどう決めていくかであるが、どう表現すればいいのか。土木関係ではそういった基礎データをお持ちだと思うが。

〈事務局〉

橋については長寿命化計画を各自治体がたてるようになっており、すべての橋を検査してそれをデータによろやくできた。それをもとに今後、改修の必要性が高いものから順次計画的に実施する。道路についても道路台帳などの整備をしながら順次やっている。

〈委員〉

お金がついたからといって大々的にやって、逆にないからといって本来しなければならぬところをしないというのは安全面で怖いので、計画的に進めていただきたい。

〈事務局〉

調査をして基礎データをもって、計画的に必要なものから実施するように財政と相談しながらしていくということですね。

〈委員長〉

3章4節「誰もが安心な地域交通システムをつくる」ですが、デマンドバスに力を入れているが、利用度が必ずしも高くないので、費用対効果の数字が悪くなるという話をした。

先日、舞鶴市で公開事業評価をしてきたのだが、テーマの1つに公共交通があり、議論の中でタクシーチケットを配ったらどうかという意見があり、南丹市のデマンドバスも参考になるのではないかという話をしたときに、地元の人から出た意見で、タクシーには心理的に乗れないというのがあった。舞鶴では自主運行バスとして市などがお金を出しマイクロバスを地元ごとに買い、時刻表とバス停を作って、バス会社みたいなものを地域で作る仕組みで運行している。この地域の文化として、バスなら乗れるがタクシーを呼んで乗ることは心理的に抵抗があるため、タクシーには乗らないということであった。舞鶴市の議論の中で、南丹市でもデマンドバスを自分の都合で呼ぶことに心理的抵抗があるのではないかという意見が出ていた。

〈事務局〉

それは数字的にも出ているので、あると思います。八木地域は地理的なこともあって今までバスの路線が手薄で日頃からタクシーを使われていたので、デマンドバスになると安く利用できるため、ものすごく利用者数が伸びています。しかし、美山にはタクシーがなかったためタクシーを利用するという習慣がなく利用にためらいがあったように思われます。これからデマンドバスが地域に定着することによって、利用が膨らんでいくと思います。これまでから日常的にタクシーを利用している地域と利用していない地域では意識の違いがみられ利用者数に大きな差があります。

〈委員長〉

それなら書き方を変えてもいいと思う。タクシー事業への補助金を研究してもいいのはとしているが、『デマンドバスの利用を進めるような方策をやってみたらどうか』としてはいかがか。『何年かやってみて費用対効果が改善できないようなら、もう少し他の方策を探ってみてもいいのではないか』としてはどうでしょうか。

〈委員〉

どこでも公共交通は難しい問題だね。

〈事務局〉

八木地域、日吉地域はタクシー会社にデマンドバスの関係を委託しています。美山はタクシーがないので、緑ナンバーで登録している地元の会社をお願いしています。広く大きく言えば、タクシー会社への補助金的な性格もあると思います。

〈委員長〉

デマンドバスについては、費用対効果が低く見えるので工夫がいるのではないかと書いている。ただ、今後どのようなことを求めるかということであるが。

〈委員〉

常に公共交通に関する研究会で問題になることだが、システム的には出そろった感があって、実際みんながどうやって使おうとするかに働きかけていかないと、どんなシステムを導入しても黒字化は難しいのではないか。個人での利用に遠慮があるのなら、使い方を地元で考えて、みんなで調整し複数人で乗車するなどうまく使っていく必要があるのでは

ないか。そうしていかないと費用が膨れ上がり公共交通を運営できなくなってしまう。だからその部分に力を入れてやっていくことが重要だが、難しい課題だと思う。

〈委員長〉

冒頭にデマンドバスの費用対効果が現状では厳しいということを書いて、その改善のために、『利用の少ない地域への普及を図るための取組をすべきである』としましょう。

〈委員〉

京都市の交通事業の特別委員をしていたことがあって、最近京都市のバス事業の業績がとてもよい。その理由は2つあって、利用者が増えているのと民間委託でコストを下げている。利用者を増やす方法の1つにいろいろな種類の割引券を出している。南丹市の利用者を増やす視点はどうか。

〈事務局〉

もっと利用が増えるような工夫をするべきだという指摘は、当然だと思います。

〈委員〉

綾部市ではバスの利用者を増やすのに老人会へ働きかけをしている。綾バスというのが、定額の1カ月乗り放題や様々な種類の回数券を作るなどいろいろ工夫していて、結構成績もいいし取材なども受けている。地域をあげて、利用者の増加に取り組んでいる。デマンドバスのコストを下げるには地元の委託業者しかなく競争ができないのであれば、後は収入を増やすしかない。

〈事務局〉

この施策は、デマンドバスだけでなく市営バスのジャンルも入っています。市営バスをもっと利用しやすいように工夫するべきとの指摘をいただいたと理解しました。

〈委員〉

通勤・通学の時間帯を外れると3時間くらいバスの運行がないというのがある。コストはかかるができるだけ利用を促し運行させてはどうか。そうしても黒字化は難しいと思うが。

〈委員長〉

大項目として、市バスが便利になるように工夫を願いたいというのがあり、その具体的アイデアとして〇〇先生から赤字覚悟でも多くのバスを走らせるべきではないかという意見があった。私の意見としては、時刻表の検索がもっと簡単にわかりやすくてきたらいいと思う。JRがどこまで協力してくれるかわからないが、JRの駅の案内やホームページに時刻表のリンクをはることであれば市バスの利用増につながるのではないか。この前に南丹市のバス時刻表を検索したときに少し使いにくく感じたので工夫を検討いただきたい。

〈委員〉

綾部市は南丹市よりも高齢化が進んでいるため病院というのがポイントになっていて、どのバスも病院に着くようになっている。JRの駅も必ず経由している。利用者は結構多

い。

〈事務局〉

南丹市もデマンドバスの行き先はまさしくそういったところになっています。病院か金融機関などそういうところになります。

〈委員〉

本数を増やして値段を定額にすれば利用者が増えるのではないだろうか。

〈委員長〉

次に第3章第5節「双方向の情報通信基盤をつくる」に入ります。

佛教大学と表現しているが、そのところを『例として、南丹市が提携している大学等と連携し、学生を活用するとか、教員による放送大学的なことをするとか、お金をかけず充実させてはどうか』として、続けて『大学にとってもイメージアップや受験生の増加、教育における活用など有益と思われる』にしましょう。立命館からは削除することとして、『南丹から外に出て行った人』は『例として、』の次に入れてください。

歳出削減では、『特に言うことはないが、』の部分は削除してはどうか。

〈委員〉

ケーブルテレビの委託費は一般財源が出ていないが歳出削減の提案につながりますか。

〈委員長〉

地域情報基盤管理運営費を圧縮できないかということなのですが。

〈事務局〉

ほとんど使用料でまかなっているが、今まで整備した投資の償還を別途一般財源でしているので、完全に使用料でまかなっているわけではありません。指定管理料が圧縮できれば、その分償還にまわすとかもできますので歳出削減の提案になると思います。

〈委員長〉

ここで少し休憩をしましょう。

(休憩)

〈委員長〉

では再開します。第2章第2節「資源が循環するまちをつくる」ですがいかがでしょうか。

『施策の中身は妥当である』という評価を先に持ってきて、この施策の組み立ての問題の指摘にしたほうがいいと思います。

〈委員〉

『ごみ処理は現状がいけないということではないが、もう少し内容を見えやすく、また地域にあった対策を進めていただけたらと思います。』というところは感想的な意見なのでカットしましょう。

〈委員長〉

上下水道の経営のところは付け足したような感じになるので、ここではカットしてはい

かがでしょうか。

〈委員〉

ヒアリングでも聞いたかもしれないが南丹市の水道事業は黒字だったのか。

〈事務局〉

どの会計も繰り入れしているが、黒字です。

〈委員〉

繰り入れの額はどのくらいか。

〈事務局〉

簡易水道で2億ぐらいです。

〈委員〉

よい経営とは、一般会計からの負担がこれ以上増えない範囲でやっていけるという理解でいいのか。

〈事務局〉

一般会計からの繰り入れをなくすというのは、簡易水道、下水道は面積が広いなど効率の悪いところがあるので厳しいと思います。

〈委員〉

繰り入れについて他都市と比べてどうか。

〈事務局〉

そのときのヒアリングでは他都市との比較については出ていなかったもので、回答するにはお時間をいただきたいです。

〈委員〉

今ごろ言うことではないですね、そのとき議論しているので、よい経営ができていればいいのです。

〈委員長〉

根本的なことを聞きますが、実際のところ南丹市はごみ減量化の取組やリサイクルについてどういう感じなのか。

〈事務局〉

今となれば分別の品目はトップランナーではないが、しっかりやっている部類に入ると思います。ごみの有料化も昭和30年代からやっていますし、細かい分別も10年、20年やっています。他のところでは、近年の減量化の取組で下がっているが、南丹市についてはこれまでの減量化の取組により少なかったのが、法律が変わり畑などで生ごみの処理をしていたのや紙のごみを燃やしたりしていたのを法律を守って処分をするために行政回収に出すようになったことなどの社会的事情により、結果としてごみが増えてしまい、減量できていないという評価になってしまっている。がんばって取組を進めているが、なかなか効果に表れていないというのが現状です。

〈委員長〉

地域特性に応じて、田や畑がある美山などであれば、生ごみなどは処分することができるが、そういったことを推奨することは法的な観点からはどうですか。

〈事務局〉

生ごみは堆肥化しようということで、容器の補助をしていますので問題ないと思います。

〈委員長〉

『今後、南丹では新しい住宅地ができてきそうなので、そういうところでは都会的なリサイクルや分別を先にルール化しておかないと住民が増えてからルール化しようとしてもまとまらないと思う。また、田畑のある地域では、もう少し柔軟な対応をしてもいいのではないかと思う。』というようなことを書いてはどうでしょうか。もう少しまとめて『地域特性に応じたきめ細やかなリサイクルの取組などを充実させてはいかがか』にしましょうか。

〈事務局〉

それでいいと思います。市長もバイオマスで処理ができるごみはしていこうということで、地域限定で生ごみを分けて回収し堆肥にする実験を始めています。生ごみを回収しなくても畑等の堆肥にできるところはそうしてもらい、新興の住宅地の生ごみを堆肥化する取組をしていきたいと思っています。

〈委員長〉

3R推進事業が上のほうにある関係で、2番目か3番目に入れてもらえればいいが、『新興住宅も増える傾向にある中、地域特性に応じたキメ細やかな取組を図る必要がある。』といったことを書いていただきたい。

歳出削減についてはいかがでしょうか。

〈委員〉

古紙回収をして金額変動があるのを補填しますというような施策をしているところは他では聞かない。最初立ち上げのときに補助金を出すというのはわかるが、ある程度システムができて動いていれば、補助金をやめてもできるのではないかという意味で発言した。あとは地域の自立的な活動に任せて補助金の出し方を考えたほうがいいのではないかと思う。

〈委員〉

昔はペットボトルを行政がお金を出して買い取っていた時代があったが、今はどうなのか。

〈事務局〉

船井郡衛生管理組合で回収して、リサイクル資源として出している。

〈委員〉

直接業者が引き取ってくれる制度はないのか。

〈事務局〉

収集から分別、ストックまでの総コストでは採算が合わなくなっているのでは、そこまで

はできないと思います。

〈委員長〉

ここでいうとどの事業になるのか。3R推進事業ですか。

〈委員〉

この中にはないようですね。

〈事務局〉

ペットボトルの関係は、事業No.333の船井郡衛生管理組合負担事業に入っています。

〈委員長〉

では、事業No.333の事業名をあげて、『リサイクル回収について民間にゆだね、補助金をやめる』でもいいのではないか。

〈委員〉

事業No.333はペットボトルの関係で、資源ごみ集団回収助成は3R推進事業の中に入っている。

〈委員長〉

それは自治会や子ども会で廃品回収等取り組まれて補助金を支出しているものですか。

〈事務局〉

そうです、5円のうち差額の分を払っており150万になります。回収したものを処分するのですが、船井郡衛生管理組合負担事業に入っています。

〈委員長〉

もし、やむを得ないということで自治会や子ども会で資源の回収をしている150万円の補助金を停止したらどんな影響があるか。

〈事務局〉

今は、資源ごみとして地域の収入になるので分別しているが、補助金がないとなればすべてではないが分別されずに一般ごみの中に入ってしまう、全体のごみの排出量が増えると思います。補助金を出してリサイクルのルートに乗せてもらおうという主旨です。ただ、カットしたからといって全量が一般ごみとなるわけではない。今は $\text{¥}5$ 円となっているのが、3円に減っても資源ごみとして出ていく分はあると思うので、補助金をなくしても資源ごみが0か100かという問題にはならないのではないか。

〈委員長〉

やむを得ない場合には、そこを削減するのでしょうか。リサイクルの取り組みから離れてしまうと、再度取り組むのが大変ではないかと思ったのですが、そうではないということですね。

〈委員〉

一度分別して出すのが癖になればずっと続くと思う。補助金がなくでもしているところもあるし、市の補填分の補助金がなくなるだけで0円になるわけではないのだから。

〈委員長〉

では次に第4章5節「未来を担う人づくりを進める」に入ります。人づくりを進める施策をあえてたてているのに、うまく運用できていないように思える。「国際交流」、「美山だけのまちづくり委員会」、「成人式」と「新規就農」という、教育も含めてトータルで行うはずが、実際には狙いどおり機能していないのではないかというのが根本的に言いたいところである。それをもう少し短く言い直せばいいと思う。『「未来を担う人づくりを進める」というテーマを一つの施策にすることは特色でありよいと思うが、事業の展開を見ると実態が追い付いていないと思う。』として、後半は教育委員会での取組も関係してくるはずなので、『そうしたことも含め人づくりに関わる事業を全体でコーディネートすることが必要ではないか。』というのを圧縮して入れたらいいと思う。

〈委員〉

人づくりの範囲は広いと思うのだが、一般的には組織上どの部署が中心になるのか。

〈委員長〉

一般的には青少年の教育と市民向けの社会教育なので、教育委員会になる。

〈委員〉

農業の人づくりはどうか。

〈委員長〉

よくあるのは農業支援として農業振興部門に入っている。一般的には、人づくりは教育委員会になるのではないか。

〈事務局〉

そうですね、教育委員会になると思います。

〈委員〉

商業の関係もそうなるのか。

〈事務局〉

商業の関係も農業と一緒に教育委員会ではなく、商工振興の課が担当になります。

〈委員〉

せっかくいい施策なのだから、結果がでてくるような組織体制と人の配置をしていかなといけなと書きたい。現状、教育委員会となっていて動けてないのは事実なので、どこが管轄するのがいいのか。

〈委員〉

教育委員会を入れるのは少し違うとあっていて、もっと絞りこんでもよかったと思う。ここでの「未来を担う人づくり」というのはベーシックに学校教育もあるかもしれないが、そういう教育とは全然違うところで、南丹らしい人づくりをやっていくところだと思う。

〈事務局〉

亀岡市には生涯学習の課が市長部局にあって、そこでいろいろな人づくりをしている。そういったイメージでのご意見をいただいたということですね。

〈委員〉

せっかくこの施策を掲げているので、専門に扱うセクションがあればよいと思う。

〈委員長〉

もともと教育委員会が主管部としてあがっていたのでそう書いていた。そうなる教育委員会マターの事業がここに載っていない。委員の意見をふまえると、教育委員会でやるようなことだけではない、産業や地域を担う存在を育てる教育委員会以外の主管部でトータルコーディネートするようなどころにおいて大胆に事業展開を図るべきではないかという提案です。そうなる『施策方針の「2. 産業を担う人材育成のための支援」や「3. 地域とまちを担う人材育成のための支援」についてやることを考えれば、市長部局に主管部を置き施策を充実させ、関係の事業をコーディネートしていく必要があると思う。』と冒頭に持っていきましょう。

施策評価表で新規就農支援事業が上にきているので、新規就農者の関係は前に持っていきましょう。この表現は事例の説明を削除してもいいと思うので、もう少し短くしましょう。

国際交流事業に関しては、『発想力を掻き立ててもらえるような委託の仕方をすべきと思う。』というような書き方に変えてはどうか。

美山まちづくり委員会支援事業ももう少し短くしましょう。P11の最後の「・」について、『旧町名が残っているので、他の地域でもこういった動きがあった時に対応できるようにするべきではないか。』とし、前段の部分は、『まちづくり委員会は、いろいろな段階があるので、その段階に応じて活用できる事業にならないか』というような感じでまとめていただきたい。

成人式について、「わーと騒ぐ」というのを修正し、もう少しまとめることとしましょう。

では、第4章第6節「行財政改革を推進する」です。この部分については、『あまりにも多種多様な事業が入りすぎているということで、次に施策の体系を見直す時には工夫いただきたい。』というのが大きくあります。

〈委員〉

それが一番大きいところですね。

〈委員長〉

市長表彰費についてですがいかがですか。

〈委員〉

これは、あまりにも表彰規定のハードルが高いのでというのものもある。

〈委員長〉

「議会がここに含まれているのが特別な感じがしますが、」というのは、最初にまとめて言っているので、その部分は削除してもう少し短縮しましょう。

『職員研修費は非常に重要なので、工夫しながら強化できないか。』というようにして、最後3行を『大学との協働も考えられるのではないか。』とします。

歳出削減の提案ですが、『広報誌等の費用を削減するため、広報関係をケーブルテレビに

注力してはどうか。』としましょう。続いて、『広報誌や議会だよりを作るには、クリエイティブな閃きのようなものに寄るところが多いので融通が利いたほうが良いと思う。』を入れて、政務調査費部分を削除してその後も短縮しましょう。

事業No.16は、『賞状や式のみとしてはどうか。』としましょう。

事業No.138は行政評価の視点で、そのままとしているのでここでは削除します。

では個別事業としては最後の第1章第1節「安心して子育てできるまちをめざす」です。『かなり多様でターゲットの幅も広いので、ターゲット別にもう少し細かく指標があったほうが良いと思う。』にしましょう。

3つ目、4つ目の「・」は全体的なことなのでここでは削除します。5つ目の「・」について、『市民意識アンケートで、地域で子育てができていると思う市民の割合を指標としており、実績値が非常に低い、聞き方にもよるのではないかと。地域で子育てができているということの行政のイメージが市民にうまく伝わっていないのではないだろうか。』としてはどうか。

事業No.650は、『内容的にはよいと思うが、未来を担う人づくりを進めるか、伝統文化を継承する施策に移すべきではないか。』としましょう。

次にP15下から2つ目の「・」について、市民福祉部の中でも現金給付の位置付けについて意見がわかれるところもあったので、しっかり調査研究したらどうかという提案です。『この施策では現金給付という手法も用いているが、それがどういった効果を発揮しているか一度しっかり研究することが必要なのではないかと。大学等との協力や外部へ委託するというのも手法としてもあるのではないかと。』というのを2個の文書でもいいし、1つの文書にまとめてもいいし、これはぜひ行ったほうが良いというのがわかるようにしていただきたい。

次は、『現金給付を行っているものについて、市内で使える買い物券にするとか、理想の育児グッズのような品物であればとかにしてはどうか。』としましょう。

次は、『高校生以上になると親の経済的負担も大きくなるのに奨学金制度が貧弱なので、子育て手当支給事業を見直し、その予算を使って奨学金制度を充実させるアイデアもあるのではないかと。』としましょう。

次は、冒頭に持って行って『この施策では医療費助成や現金給付に関するものが多いので、特色としてアピールし定住促進にも使えるが、内部で方針がわかれているので、はっきりさせるべきではないかと。』としましょう。

次に『市民の労働の実態に応じて、保育所が夜間、土日の対応をできるようにしてはどうか。市外で働いている人のニーズに合わせた保育をできるようにすると転入者も増えるのではないかと。ただし、保育所のサービス強化をすべて行政がするという発想でないほうが良い。』としましょう。

次は私が発言した意見ですが、『小学校低学年の子どもの過ごし方について、子育てのまちづくりのポイントになると思うので様々な方策を研究してほしい。』とまとめてください。

〈委員〉

最後の「・」は全体的なことなのでここではカットしてください。

〈委員長〉

歳出削減の提案になりますが、『「すこやか子育て医療費助成事業」、「子宝祝金事業」、「子育て手当支給事業」や「入学祝金支給事業」について、財政削減の視点では減額もやむを得ないのではないか。』としましょう。

施策については、ここまでにして、3カ年の評価結果の総括に行きたいのですが、その前に少し休憩します。

（休憩）

〈委員長〉

それでは再開いたします。ここからは3カ年の評価結果の総括に入ります。もともとは2期目ということ考えたときに評価委員の数を3名の少人数にして、より密な議論ができるようにした。さらに歳出抑制につなげられたらという思いを持って始めた。できたことと残された課題について、ここで3年間を振り返ってご意見を伺いたい。

まずは私から発言させていただくと、総務省の調査でも全国で977の自治体が行政評価をしているようで、全自治体約1,800の半分強が行政評価をしている中で、この南丹市の評価は、施策評価表等もリニューアルされシステムも考えられて、先進的な取組の1つではないかと思う。しかし残念ながら、システムの全体を見ると、事業貢献度評価の中に工夫をいただいたが、実態がうまく変わっていない。3カ年で取り組んできた中には23の施策のどこに力を入れるか、施策間の優先度も自治体の運営上、大事だし、そこに切り込みたかったが、そこについては十分な成果を残せなかった。評価表を工夫して、目的と事業の関係を明確にしている点、指標にこだわりすぎず、事業の実施実態、業務の実態を具体的に書いてもらっている点がいいと思う。また委員の数も多いと意見が多岐にわたりまとまらず指摘しきれないとなるので3人でよかったと思っている。一方、評価をやって活用すると考えたときに、財政と一体となって取り組む体制も大事だと思う。組織の中で事務局の体制強化が鍵になるのではないか。

〈委員〉

合併以降、こういった制度を導入されて、新しいまちづくりを開拓していこうという方向性はいいが、それぞれの課題に対しての対応のスピードが遅く感じる。例えば、旧町からの施設の整理という話が出ていたが、それがどうなったかというのがわからない。ほんとは改革できているが、私が理解できていないだけなのかもしれないが。どの程度改革ができているのか、外部評価も含めての意義、効果がどうなのかというのが、すごく大事なことだと思う。評価した以上、優先順位を含めて施策ごとの事業を見て出た結果を予算編成に反映させ、実行したのち決算で見たときに比較してどうだったかというのが必要なのではないか。現状では市民目線から見たサービスの充実、財政削減の面で見ただけの効果が出たという評価の仕方がよくわからない。評価を続けてきた結果はどうなのか

というのが、実感できない。また指定管理や第三セクターを含め委託事業がたくさんあるが、全体として財政削減の効果がどのくらいあるのかということにも興味を持っている。

〈委員長〉

京丹後市の取組でも、なかなか実感としてわからないが、外部評価はすぐに生かせるわけではないので、平成22年度から数年間取り組んできた指摘事項で平成25年度予算に生かされたものを積算すると、28事業で約3千万円となる。なかなか減らせるものではないのでよくやった方だと思うし、このように数値化することもできる。『改革のスピード感の問題』や、『旧町の壁をそろそろ越えて』というのは入れておきましょう。細かいことだが『年々の外部評価の結果と反映状況をもう少し細かくレポートしてほしい』というものもある。

〈委員〉

23施策の評価を行うのに3分の1ずつになってしまうので、タイムラグができてしまい、その間に制度が変わってしまうというのがあるので、その辺りがどうかと思う。総合振興計画の作り方も変わっていくと思うので、外部評価を入れてまで意見をもらいたいのは、どういった施策なのか、もう一度精査しないといけないのではないかと。今回やっている事業は国や府にのっかっているものや市独自でここを強化したいとやっているものなどがあるが、市独自のものに重点を置いてやっていくのも1つのやり方だと思う。それが内部評価と外部評価のすみわけと連携になっていくと思う。本当は毎年外部評価委員が追いかけて進捗度を見ないといけないと思うが、現状では見ることはかなり難しい。これまでの努力で評価シートとしては完成度の高いものになってきているし、そこへの指摘を外部がいちいちする必要は減ってきているので次の段階に移行できるようになったのではないと思う。外部の目を通してもらいたいという部分というのは優先度の高い事業になるのではないかと、なのでこの事業をというふうにするものもあるのではないかと。

〈委員長〉

外部評価の役割の1つに外部の人の多様なアイデア、チェックを求めるのはわかるし、そういう主旨からするとおっしゃるとおりだが、他方で外部評価でのアカウンタビリティという機能ではどうか。もともと重要な政策について外部の意見を請うとか参加を促すという趣旨でいくと、例でいうと舞鶴であった公開事業評価みたいなものがあるが、全部の評価のうちの一部しか外部の目が入っていない。市民からすると、都合のいいものばかり取りあげているのではという疑りがでるので、ざっとでも全部見ておいたほうがいいという発想が一つ。市の単費や独自事業以外は変える余地もないのでざっと流すが、子育て支援事業も市の単費でやっているものと国でやっているものと総合で組みあがっているの全部見ておいたほうがわかりやすいので今のようなスタイルになっている。

〈委員〉

資料として何かを抜いてしまえという意味ではない。外部評価として何を狙うかの重点がそのまま施策に影響を与えているのではないかと思う。最初は書き方の問題でシステム

をきっちり作っていく、職員が評価をしていこうという体制をフォローする意味で、私達は機能したと思うので、次に優先度を検討していこうと移行したはずだが、全部を丁寧に見ていこうとすると、3分の1ずつしか毎年見られないとなってしまう。優先度のところで指摘ができたかどうか、私自身もわからなかった。財政的な削減について重点をおいた機能の仕方はないのかということです。

〈委員長〉

そこで問題になってくるのが、どうやって事業を絞り込むかというところで、委員長が先に見ておいて絞るということもできるが、他の委員の視点まで含むことができない。京丹後市は同じ施策を2度評価する方式で、1度評価をして評価のまとめを作って、担当部局で目を通して反論書を書いてもらい、それを発表してもらい、2回目にするときにはだいたい論点が絞られ、実態に乖離した指摘とかがなくなるという効果が期待できる。その代わり5年周期になっている。丁寧にはできるが時間がかかってしまう。2週目になれば4年くらいでできるのではないかと思う。どうやって施策のポイントを絞るかが課題だが、時間をかけないとできないのではないか。〇〇先生はいかに時間をかけずに集中してという意味で発言いただいたかなと思う。

〈委員〉

たくさん事業がある中で、国や府に乗かって市と一緒にやっていく事業がたくさんあるが、市独自でやる部分と大きく分けられるので、市独自の事業だけを見ることにするとどうなるのか。

〈委員長〉

本当に歳出抑制をしないといけない場合は、そういう切り方をするのではないか。補助金だけピックアップして、補助金見直し評価委員会をするのもありだと思う。

〈委員〉

国と府の施策なり事業を南丹市も受けて市民に共同で提供していくのは市の行政から見たらやらざるを得ないのではないか。市独自の評価にも影響があるのか。

〈委員長〉

評価の世界では2つ考え方があって、省力化を図るのであれば義務的にやらないといけない部分は評価しない発想もある。他方で義務的な部分も動かそうと思ったら動かせるから、トータルで見て市のやっていることが国や府の義務的なことに振り回されているのなら、評価でそれらを明らかに指摘して変えろと言っていかないといけないので、全体像を見ておいたほうが良いというのがある。国の都合でやっているような不都合なものなら非合理だと言ったほうが良い。今は南丹市でやっている施策をトータルで見るやり方だが、テーマ性を持って絞るというやり方もあるという意見をいただいていると思う。ただ、こういう行政評価推進委員会を開くこと自体は継続して、別途補助金だけを見る委員会を設けてもいいのではないかと思う。全般を見るというのは続けたほうが良いのではないか。

3カ年の総括としてはどうでしょうか。一つは『内部評価の取り組みについては、前

回の3年より改善された。しかし、具体的にどのような成果を生んだのかは少しわかりにくい。』というのがある。

〈委員〉

どういう物差しだと一番結果がわかりやすいのか。

〈委員長〉

難しいところだが、評価した結果どれもよいということであれば、それでよいとなる。そうじゃなければ、事業数がどれだけ変わったか、予算がどれだけ変わったかということでも一定計ることができると思う。全般的にやっていった結果、変えるほうにも一理あるし変えないほうにも一理あるから、変えるか変えないかわからないというのでずっときている施策・事業が多かった印象がある。

〈委員〉

確かにアカウンタビリティという意味では、全部ある程度目を通して、問題がありそうなものには成果があったかなと思いますが、市長が最初におっしゃった、この先を見れば財政的にどうかというのがあって、そこの削減の余地を見れば、効果があったかは疑問に思う。効果を出すところまで外部評価委員が期待されているなら、もう少し絞り込んできちんと議論する必要があると思う。

〈委員長〉

私は財政を改善するとか、財政危機を予防する、政策を変える効果を発揮するというのは、組織体制によるものだと思っている。評価制度、運用の仕方をこれ以上変更しても市長や行政に動いてもらわないと変わらないと思う。評価が積極的に動いても、結局何やってもだめだとなって評価が消えていく方向になるのをむしろ懸念する。評価としては、今のままで、次は提言を受けて集中的にもっと事業を絞ろうとか、サマーレビューをしようとか、そういう行政の体制を作るかどうかの問題だと思うので、評価制度や運用方法をちょっとやそっと工夫をしても仕方ないと思う。先ほど言った、体制の強化で企画と財政を合体させて改革をするというような組織体制の改善に私としては期待したい。いろいろなところで評価をしているが、似たような表や段取りの仕方をやっても結果がいろいろと違う。委員の議論とかではない部分が大きいのではないかと感じる。

〈委員〉

私達がやってきたことは、今後も粛々とやっていくことに意味があるとして、一方で目的を絞った評価、議論をやったほうが良いと思う。外部評価について最初はインパクトがあったが、今では定着している。財政削減に特化したようなインパクトのあるものを取り入れる必要があるのではないか。

〈委員長〉

今までのところで、『もともと2期目の評価では施策の優先順位が課題であったが、十分に達成できていないのでその点への配慮があること』、「歳出削減の提案を求められて取り組んできたが、別段の取組をしなないとこの体制のままでは十分な成果が出ない」、「行

政側の事務局の組織体制の問題や補助金だけとか市の単費のものだけを集中的に、行政の内外で見直すような仕組みを考えてもどうか』としましょうか。

〈委員〉

ここではなくて、4ページの評価結果の概要に書いたほうがいいのかと思っていたことがあって、指定管理とか外部委託をもう少し活用しようという提案を出していて、実際にそれが導入されているが、そのことを行政としてどう評価していくか、外部に委託したというので評価が終わってしまっているの、その視点をきちんと整理しないと、外部も評価しにくいし、どういう意図でそれが外部に委託されているのかなど、もう少し充実をしていかないといけない。

〈委員長〉

3カ年の総括の項目として、『改革のスピード感の指摘』、『旧町の壁を越えて』、『地域・大学など、一層の民間の力との連携』、そして『民間に委託して相手が行った業務内容の把握と評価も課題になる』というのでいきましょう。

〈委員〉

中期計画などの視点が経営のうえでは必ず出てくる。後期基本計画が、平成29年度までできている。それに財政も全部入れた財政計画を作ると、5年後にはここまでの財政の姿にしておかないといけないという目標を前提に後期の5カ年計画を実践していくので、それを単年度ごとに落とし込んだ物差しみたいなものはないかなと思う。

〈委員長〉

京丹後市でいうと毎年の削減目標がある。私も思っていたが、行政の場合は基本構想と基本計画、実施計画、個別分野の計画とそれとは別に財政の計画がばらばらになっている。行政計画の簡素化と有機的な結合、それと評価システムが上手く結びつかないといけない。『行政経営の在り方を見直し、現在の多層化している行政計画を簡素化し有機的に結び付け、それと評価を連携させていくという着想があるのではないか。』ということにします。

次期評価システムについて、『大まかには内部評価的にこの仕組みで施策と事業については作っていただいたらいい。しかしそれをどう活用するかというのは対象を絞ってやることもできるのではないか、財政の問題に絞って縮小したいということがあれば、サマーレビュー的なものを内部でやるとか、外部で補助金見直し委員会を設けるとか今の外部評価委員会とは別にするのもありだと思う。』とし、施策の優先順位付けについては『施策の優先順位付けを行政としてどのようにするのか。評価制度に絡めてなんとなくこのままでというのでは難しいと思う。これからの自治体の経営にとって、施策の優先順位付けは重大な課題であるので、それをどのように行い、毎年の行政運営に反映しどう公表していくのか検討してほしい。』としましょう。

〈委員〉

優先順位付けについて、一般論として組織は縦割りになってしまうので、全体の施策の優先度でここを膨らます、ここを削るというのはしにくいと思う。優先順位を考えると

に外部の要因に乗っかってしまうことが多いのではないかと。

〈委員長〉

市長、副市長、部長の間でしっかり議論して、できるだけその内容をオープンにしてくださいということくらいではないかと思う。いろいろな状況を想定するといっても無理があるので、何パターンかは作れるだろうが、あまり緻密にできるものではないと思う。

では只今いただいた意見を基に事務局でお世話になって、報告書を作成していきたいと思います。日程等の関係で、もう一度集まっていただくことが難しいので、この取りまとめたものを委員の皆様から事務局からお送りいただいて、ご意見をいただいたうえで、報告書の取りまとめを行いたいと思います。申し訳ありませんが、最終決定については委員長一任でお願いできますか。この報告書は、9月9日の午後2時から市長に提出いたします。

〈委員〉

よろしく申し上げます。

〈委員長〉

今後の在り方については事務局のほうでご検討されるということですが、これまでの評価のやり方についても私たち委員会の意見を事務局のほうで受け止めていただいて対応いただいた。次の体制がどうなるかわかりませんが、また委員の皆様とご一緒させていただく機会があればと思っております。委員の皆様にはこの委員会の運営に多大なご尽力を賜り大変ありがとうございました。

今回の評価結果につきましても、今後の行政活動にご活用いただきますようお願いいたします。

では、その他で、事務局から何かございましたら申し上げます。

〈事務局〉

9月9日午後2時から報告書の提出につきまして、よろしくお願いいたします。

〈委員長〉

委員の皆様から何かございますか。

本日の委員会を受けて、取りまとめた報告書を委員の皆様から事務局から送っていただきますので、ご意見等を事務局か私まで申し上げます。

それでは、これをもちまして、第5回行政評価推進委員会を終了いたします。

ありがとうございました。